



## 「宮本常一の写真に読む 失われた昭和」

佐野眞一著 平凡社 1,600円(税別)

平成になって20年がゆうに過ぎた。「昭和」という時代がどんどん遠ざかっていく。宮本常一は、ごく当たり前の庶民の暮らしや何の変哲もない風景などを生涯で約10万枚の写真撮影している。高度経済成長期の中にあっても、名もなき土地の名もなき人を訪ね記録し続けた。著者は、約200枚の写真を通して、日本人が捨て去ってきたものやかつて持っていたものの見方などを紹介している。貧しくても夢や希望や笑いがあった時代の思いを、今だからこそ改めて考えていかなければならない。この中の写真から、あなたは「昭和を、今を」どう読むだろうか？



## 「宮本常一写真図録 第2集」

### 日本人の暮らし 昭和37~39年

編者：周防大島文化交流センター、東京写真月間実行委員会(社団法人日本写真協会、東京都写真美術館)

みずのわ出版 2,300円(税別)

第1集は、「瀬戸内海の島と町 広島・周防・松山付近」の紹介で、2007年8月に発行されている。今回は、戦後の日本が高度経済成長に向かう時代の昭和37~39年を題材にしている。鹿児島県大隈半島、萩市見島、天竜川流域、青森県下北半島、北海道礼文島、周防大島を収録。昨年の「東京写真月間2008」の企画展示がモチーフになっているとのこと。ペタ焼きを多数使い、当時の宮本常一の視線を感じれることうけあい。

宮本常一を語る愛媛の会 豊田 渉

## 今年度のスタッフです

平成21年度(財)えひめ地域政策研究センターまちづくり活動部門は右のスタッフで活動します。今年度もよろしく願いいたします。

- 上段左より：●松本 宏(伊予市) ●武田 昭文(全農愛媛県本部)  
●小方 悟 主任研究員 ●吉良 大助(八幡浜市)  
下段左より：●土井田 真里 事務員 ●森川 保男 専務・所長  
●芝 加納子 事務員



## 【編集後記】

「風に吹かれて」というポップ・ディランの歌がある。当時のアメリカで世の中を変えたいと願う人々の間で歌われるようになったこの曲は、奥の深い歌詞とシンプルなメロディーでいつ聴いても原点に帰してくれる。風には形がない。何事にもとらわれないし、こだわらない。英語のWINDには「予感」という意味もある。形にとらわれず、時代の風を感じて常に変化し続け、風のごとく生きたいと思う。桜の季節は別れと出会いの季節でもある。『散る桜、残る桜も散る桜』答えは常に風の中にある！  
(清水)

内容についてのご意見やまちづくり活動のトピックなどありましたら、お気軽に『舞たうん』編集係までお寄せください。  
〒79010003  
松山市三番町四丁目十番地一  
愛媛県三番町ビル二階  
(財)えひめ地域政策研究センター  
まちづくり活動部門  
TEL 089(932)7750  
FAX 089(932)7760  
発行/平成二十一年四月一日  
(財)えひめ地域政策  
研究センター  
印刷/岡田印刷株式会社